

赤磐市立城南小学校

児童数 139名 ・ 学級数 8学級 ・ 教職員数16名（平成27年2月16日現在）

○取組実践のキーワード

- ・ 1 単位時間の学習過程の工夫（『岡山型学習指導のスタンダード』を考慮して）
- ・ 基礎的な知識・技能の習得 … **まなびタイム**、**城南っ子検定**
- ・ 家庭学習の習慣化 … **家学カード**

○標題（研究主題）

「思考力・判断力・表現力の向上を図る言語活動の工夫」～書く活動・話し合う活動を中心として～
（平成24年度～平成26年度）

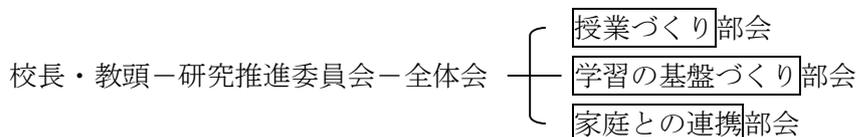
○取組を始めた経緯

昨年度までの研究により、「書くことに対する抵抗感が減った。」「グループで進んで話し合うことができるようになった。」などの改善点が挙げられる。しかし、全国学力・学習状況調査などの結果から、基礎的な知識・技能の習得が不十分であることや、「文章を書こうとするが、正しく表現することができない。」「数学的に考える力が低く、表現力も乏しい。」などの課題が依然として見られた。

そこで、これらの能力を高めるために、上記キーワードの事柄に重点を置いて研究を進めることにした。

○取組の実施体制

【研究に関する校内組織】



【外部関係等】

- ・ 吉井中学校区学力向上部会（保・小・中連携）
- ・ 「魅力ある授業づくり徹底事業」、教科教育、特別支援教育等における外部講師

○学力向上に向けた具体的な取組

【授業づくり（授業改善）】

- ・ 児童が意欲的に授業に参加し、思考力・判断力・表現力を向上させることができるよう、『学習指導のスタンダード』を考慮しつつ言語活動の充実に視点を置いて、1 単位時間の学習過程を確立させる。
- ・ 『言語活動の充実にに関する指導事例集』（文部科学省 平成23年10月）を基に、児童の発達段階や教科の特質を考慮した、書く活動（自力解決）、話す活動（考えの交流）の工夫をする。
- ・ 児童学習アンケート（5月・11月・2月）を実施する。
- ・ 全国学力・学習状況調査、県たしかめテストなどの結果を分析し活用を図る。

【基礎的な知識・技能の習得】

- ・ **まなびタイム**（業前学習：15分間）を設定し、全学年で「たしかめテスト」「トライシート」「Benesseダウンロードプリント」「学びの定期便」に取り組む。学年に応じたドリル学習も取り入れ、漢字と

計算の習熟を図る。

- ・城南っ子検定本校独自に作成した漢字及び計算問題の検定を実施する。級を設定し、宿題などで類似問題を解いた後、「学びタイム」の15分間で30問弱の問題に取り組む。全問正解で合格とする。児童の実態に応じて級を選択する事が可能。
- ・学年末に、全学年で算数科を中心として各学年の学習内容の総復習をし、積み残しを無くす。

【家庭との連携】

- ・家庭学習の手引きや学習だより（1回／学期）を発行し、保護者啓発活動をする。
（学習だよりには、全国学力・学習状況調査の結果や本校の学力向上の取組等を記載）
- ・家学（いえがく）カード（1週間／毎月）「家読（いえどく）カード」を実施し家庭学習を習慣化させる。カードには学習時間、児童の振り返り、保護者の意見、担任のコメントを記入する。

【吉井中学校区（保・小・中）の連携】

- ・100%の児童・生徒が次時の学習の準備をしてから休憩することを徹底する。
- ・「ノーメディアデー」の合同実施。中学校の定期考査期間に合わせて、保・小・中で同じ日をノーメディアデーとして自主学習や家庭読書を奨励する。結果をカードに記録する。

○現在までの取組の成果と課題

1 成果

【教員、児童共に見通しのある授業へ】

1 単位時間の学習の流れとしては、「(課題を)つかむ」「考える(自力解決)」「深める(集団思考)」「振り返る」という4つの過程が本校の児童の実態に合っているのではないかという結論に至った。「考える」過程では、児童一人一人が自分の考えや説明をノートに書く時間を保障し、自力解決に向けて積極的に支援を行うことや、「深める」過程では、練り上げに重きを置くのではなく、教師の意図的指名や板書に位置付けることなどにより考えを補完していくという実践を行った。「振り返る」過程では、「めあて」に対応させて教師がポイントを押さえた後に、児童が自分の言葉で「まとめ」を書く、教師と共に「まとめ」を書く、応用問題を解くなどの活動が定着しつつある。児童学習アンケート「解き方や考え方が分かるようにノートに書く。(算数)」の質問において、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と答えた児童の割合が数ポイント高くなっている。3年(81.8→90.9%)、4年(70.6→82.4%)、5年(75.9→79.3%)

教師は「めあて」と「まとめ」を意識した授業を行い、「めあて」と「まとめ」の整合性などについても協議することができた。

【つまずきの把握や課題の克服に】

城南っ子検定やまなびタイムの「たしかめテスト」等の取組は、当該学年の学習やそれ以前の問題も解くため、見落とししていたつまずきの把握や復習の機会を増やし定着につなげる役目を果たしている。

城南っ子検定、第1回…前学年の計算検定(合格者61/139人)→追試(合格者+25人、86/139人)

【宿題の提出率が90%以上に】

家学カードは1か月に1週間、学習時間を記録するため、目標時間を意識して丁寧に宿題に取り組んだり、宿題に付け加えて自主学習をしたりすることができる。児童の振り返り、保護者の意見、担任のコメントも記入するので、「宿題の取り掛かりが遅くて困る。」などの情報交換もできる。城南っ子検定や家学カードの取組は、児童の学習意欲を喚起することにつながっており、合格を目指して漢字練習や計算練習に意欲的に取り組む姿が見られた。

【ノーメディアの達成率の向上】

ノーメディアの達成率が34.1%（7月）から55.3%（10月）へと向上してきた。その背景として、家庭学習の手引きや学習だより（1回／学期）を基に、学級懇談等で保護者と、テレビの視聴時間が長いことなどの本校の課題について話し合い、取組についての協力を呼びかけたことが挙げられる。

中学校区合同の「ノーメディアデー」の設定により、兄弟姉妹で同日に取り組めることや、児童や保護者向けのメディアに関する講演会、家庭でのルール作りなどの取り組みが効果の要因と考えられる。

2 課題

城南っ子検定や、家学カード、学年末の総復習などの取組により、児童の学習意欲は向上しているが、全国学力・学習状況調査などの結果に急激な改善として表れていない。しかし、領域によっては少しずつ改善されている部分もあるので、引き続きこれらの取組を行い、基礎基本の定着を図りたい。城南っ子検定は本年度から、家学カードは昨年度からの取組なので、修正や改善が必要である。

また、学年末の総復習など、それぞれの取組が学力向上につながっているか評価できていない部分があるので、これからの経年比較や分析を必要とする。

○取組の継続・発展の要因

- ・まなびタイムにおける「たしかめテスト」「トライシート」等は、**全学年で**実施したこと。
- ・城南っ子検定は、実態に応じて**級を選択**できること、**予め範囲を指定**し練習をしてから取り組めることで、自主的に漢字練習に取り組む→検定に参加する、の良いサイクルができていていること。合格賞として家学カードに級の記入をし合格シールを貼ることで、結果が残ることも児童の楽しみになっていた。
- ・家学カードは、管理職が一人一人に3種類の**がんばりシール**を貼り分けていることが、継続の一助になっていること。
- ・研究授業後の協議の際、自分が「取り入れたい点」や「改善をしたい点」を明確にして協議に参加することで、成果と課題を共有し全職員で研究を推進するという参画意識が高まってきていること。

○管理職・中核教員等のアクション

- ・管理職は、学力向上アクションプランの提起の基に、1日に何度も授業観察することで、児童に直接声を掛たりがんばりを奨励したり、教員にもアドバイスをしたりした。
- ・中核教員は、作成したワークシートを学年ごとに保存する等して、個々の実践的指導力を共有し、組織の力として発揮できるように働きかけた。
- ・城南っ子検定における採点や、まなびタイムや総復習で使用する「たしかめテスト」「トライシート」等のプリント類は担当や担任外で印刷し、担任の負担を軽減した。

○その他の資料・写真等

家学カード（表裏）

家学カード（内側）

学習時間や児童、保護者、担任の意見欄

